

## 第 2 回 運行管理者模擬試験問題（貨物） 解答・解説

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
1, 3	4	A 5, B 2, C 7, D 8	2	1
問 6	問 7	問 8	問 9	問 10
1	1, 3	2, 3	1, 2	3
問 11	問 12	問 13	問 14	問 15
3	4	2, 4	3	1, 2
問 16	問 17	問 18	問 19	問 20
4	A 6, B 4, C 9, D 10, E 3	1	4	2, 3
問 21	問 22	問 23	問 24	問 25
4	A 4, B 6, C 5, D 1	1	適 : 1 不適 : 2, 3, 4	適 : 2, 4 不適 : 1, 3
問 26	問 27	問 28	問 29	問 30
適 : 1, 3, 4 不適 : 2	適 : 2, 4 不適 : 1, 3	3	3	① 48 km/h ② 6.4 km/L

### ■ 問 1 正解 : 1, 3

1. 正しい。
2. 誤り。運賃及び料金を定め又は変更したときは、運賃及び料金の設定又は変更後 30 日以内に、運賃料金設定（変更）届出書を提出しなければならない。
3. 正しい。
4. 誤り。一般貨物自動車運送事業者が、標準運送約款と同一の運送約款を定めたときは、その運送約款については、国土交通大臣の認可を受けたものとみなす。

「1-2 貨物自動車運送事業の許可・届出」、「1-4 運賃・運送約款等」参照

### ■ 問 2 正解 : 4

1. 正しい。
2. 正しい。
3. 正しい。
4. 誤り。輸送の安全に関する基本的な方針の策定その他の国土交通大臣

が告示で定める措置を講じることは、事業者の業務である。

「1-13 乗務員の指導・監督」、「1-18 運行管理者の業務」参照

■問3 正解：A 5, B 2, C 7, D 8

貨物自動車運送事業輸送安全規則3条6項、7項

事業者は、乗務員の（健康状態の把握）に努め、疾病、疲労その他の理由により（安全な運転）をし、又はその補助をすることができないおそれがある乗務員を事業用自動車に乗務させてはならない。

また、事業者は、運転者が長距離運転又は（夜間の運転）に従事する場合であつて、疲労等により（安全な運転を継続）することができないおそれがあるときは、あらかじめ、当該運転者と交替するための運転者を配置しておかなければならない。

「1-7 過労運転の防止」参照

■問4 正解：2

貨物自動車運送事業輸送安全規則7条1項

貨物自動車運送事業者は、事業用自動車の乗務を開始しようとする運転者に対し、対面（運行上やむを得ない場合は電話その他の方法）により点呼を行い、疾病、疲労、飲酒その他の理由により安全な運転をすることができないおそれの有無並びに（日常点検の実施）又はその確認について（報告）を求め、事業用自動車の運行の安全を確保するために（必要な指示）をしなければならない。ただし、輸送の安全の確保に関する取組が優良であると認められる営業所において、貨物自動車運送事業者が点呼を行う場合にあつては、当該貨物自動車運送事業者は、対面による点呼と同等の効果を有するものとして国土交通大臣が定めた（機器）による点呼を行うことができる。

「1-9 点呼」参照

■問5 正解：1

自動車事故報告規則3条1項、貨物自動車運送事業輸送安全規則9条の2  
（事故報告書の提出）

自動車が転覆し、火災を起こし、その他国土交通省令で定める重大な事故があつた場合には、30日以内に、当該事故ごとに自動車事故報告書（3通）を当該（自動車の使用の本拠の位置）を管轄する運輸監理部長又は運輸支局長を経由して、国土交通大臣に提出しなければならない。

（事故の記録）

一般貨物自動車運送事業者等は、事業用自動車に係る事故が発生した場合には、次に掲げる事項を記録し、その記録を当該事業用自動車の運行を管理する営業所において3年間保存しなければならない。

- 一 （乗務員）の氏名
- 二 事業用自動車の自動車登録番号その他の当該事業用自動車を識別できる表示
- 三 事故の発生日時
- 四 事故の発生場所
- 五 事故の当事者（乗務員を除く。）の氏名
- 六 事故の概要（損害の程度を含む。）
- 七 （事故の原因）
- 八 （再発防止対策）

「1-14 事故報告」参照

■問 6 正解：1

1. 誤り。国土交通大臣は、事業者が過積載による運送を行ったことにより、貨物自動車運送事業法の規定による処分をする場合において、過積載による運送が荷主の指示に基づき行われたことが明らかであると認められるときは、当該荷主に対しても、過積載による運送の再発防止を図るため適当な措置を執るべきことを勧告することができる。
2. 正しい。
3. 正しい。
4. 正しい。

「1-5 行政処分等」、「1-6 輸送の安全」、「1-8 積載、自動車車庫」参照

■問 7 正解：1, 3

1. 正しい。
2. 誤り。運行指示書の作成を要する運行の途中において、運行の開始及び終了の地点及び日時に変更が生じた場合には、運行指示書の写しに当該変更の内容を記載し、これにより運転者に対し変更の内容について適切な指示を行い、及び当該運転者が携行している運行指示書に当該変更の内容を記載させなければならない。
3. 正しい。
4. 誤り。運行指示書及びその写しは、運行の終了の日から1年間保存しなければならない。

「1-11 運行指示書」参照

■問 8 正解：2, 3

1. 誤り。「雇入れの年月日」「運転者に選任された年月日」は絶対的記載事項だが、「事業用自動車に初めて乗務した年月日」「事業用自動車の乗務経験の有無」は、記載しなければならない事項ではない。
2. 正しい。
3. 正しい。
4. 誤り。運転者台帳には、運転者台帳の作成前 6ヵ月以内に撮影した写真を貼り付けなければならない。

「1-12 運転者台帳」参照

■問 9 正解：1, 2

1. 正しい。
2. 正しい。
3. 誤り。臨時運行の許可の有効期間は、法令で定める特別な場合を除き、5日をこえてはならない。
4. 誤り。指定自動車整備事業者が交付した有効な保安基準適合標章を自動車に表示していれば、自動車検査証を備え付けなくても当該自動車を運行の用に供することができる。

「2-5 自動車の検査」、「2-7 臨時運行許可・保安基準適合証等」参照

■問 10 正解：3

1. 正しい。
2. 正しい。
3. 誤り。貨物自動車運送事業者は、整備管理者を選任したときは、その日から 15日以内に、地方運輸局長にその旨を届け出なければならない。
4. 正しい。

■問 11 正解：3

1. 誤り。事業用自動車の使用者又は事業用自動車を運行する者は、1日1回、その運行の開始前において、日常的に点検すべき事項について、目視等により自動車を点検しなければならない。
2. 誤り。事業用自動車の定期点検整備は、3ヵ月ごとに行わなければならない。
3. 正しい。
4. 誤り。点検整備記録簿は、当該自動車に備え置く。

「2-8 自動車の点検整備」参照

■問 12 正解：4

1. 正しい。
2. 正しい。
3. 正しい。
4. 誤り。灯光の色が黄色であって点滅式の灯火（黄色回転灯）を備えることができるのは、道路維持作業用自動車のみである。

「2-13 道路運送車両の保安基準②」参照

■問 13 正解：2, 4

1. 誤り。路側帯とは、歩行者の通行の用に供し、又は車道の効用を保つため、歩道の設けられていない道路又は道路の歩道の設けられていない側の路端寄りに設けられた帯状の道路の部分で、道路標示によって区画されたものをいう。
2. 正しい。
3. 誤り。これは、駐車 の定義である。停車とは、車両等が停止することで駐車以外のものをいう。
4. 正しい。

「3-1 道路交通法の目的・用語の定義」参照

■問 14 正解：3

1. 正しい。
2. 正しい。
3. 誤り。同一方向に進行しながら進路を左方又は右方に変えるときの合図を行う時期は、その行為をしようとするときの3秒前である。
4. 正しい。

「3-10 灯火・合図」参照

■問 15 正解：1, 2

1. 正しい。
2. 正しい。
3. 誤り。積載物の高さは、3.8メートル（公安委員会が道路又は交通の状況により支障がないと認めて定めるものにあつては3.8メートル以上4.1メートルを超えない範囲内において公安委員会が定める高さ）からその自動車の積載をする場所の高さを減じたものを超えてはならない。
4. 誤り。過積載をしている車両の運転者に対し、警察官から過積載とならないようにするため必要な応急の措置命令がされた場合において、当該命令に係る車両の使用が当該車両に係る過積載を防止するため必要な運行の管理を行っているとは認められないときは、当該車両の使用の本

抛の位置を管轄する公安委員会は、使用者に対し、車両を運転者に運転させる場合にあらかじめ車両の積載物の重量を確認することを運転者に指導し又は助言することその他車両に係る過積載を防止するため必要な措置をとることを指示することができる。

「3-11 乗車・積載」参照

■ 問 16 正解：4

道路交通法 66 条の 2 第 1 項

車両の運転者が道路交通法第 66 条（過労運転等の禁止）の規定に違反して過労により（正常な）運転ができないおそれがある状態で車両を運転する行為（以下「過労運転」という。）を当該車両の使用者（当該車両の運転者であるものを除く。）の業務に関してした場合において、当該過労運転に係る車両の使用者が当該車両につき過労運転を防止するため必要な（運行の管理）を行っているとは認められないときは、当該車両の使用の本抛の位置を管轄する（公安委員会）は、当該車両の使用者に対し、過労運転が行われることのないよう運転者に指導し又は（助言）することその他過労運転を防止するため必要な措置をとることを（指示）することができる。

「3-12 運転者等の義務」参照

■ 問 17 正解：A 6, B 4, C 9, D 10, E 3

道路交通法 72 条 1 項

交通事故があったときは、当該交通事故に係る車両等の運転者その他の乗務員は、直ちに車両等の運転を停止して、（負傷者を救護）し、道路における（危険を防止）する等必要な措置を講じなければならない。この場合において、当該車両等の運転者（運転者が死亡し、又は負傷したためやむを得ないときは、その他の乗務員。）は、警察官が現場にいるときは当該警察官に、警察官が現場にいないときは直ちに最寄りの警察署（派出所又は駐在所を含む。）の警察官に当該交通事故が発生した（日時及び場所）、当該交通事故における死傷者の数及び（負傷者の負傷の程度）並びに損壊した物及びその損壊の程度、当該交通事故に係る車両等の（積載物）並びに当該交通事故について講じた措置を報告しなければならない。

「3-12 運転者等の義務」参照

■ 問 18 正解：1

1. 正しい。
2. 誤り。たとえ当事者間の合意があったとしても、労働基準法上の基準を理由とする労働条件の低下は許されない。当事者間の合意の有無は無関係である。
3. 誤り。労働協約、就業規則および労働契約を遵守し、誠実にその義務を履行しなければならないのは、労働者および使用者の双方である。
4. 誤り。平均賃金とは、これを算定すべき事由の発生した日以前 3 ヶ月間にその労働者に対し支払われた賃金の総額を、その期間の総日数で除した金額をいう。

「4-1 労働条件の原則等」、「4-2 用語の定義・労働契約等」参照

■ 問 19 正解：4

1. 正しい。
2. 正しい。
3. 正しい。

4. 誤り。使用者は、労働者の死亡又は退職の場合において、権利者の請求があった場合には、7日以内に労働者の権利に属する金品を返還しなければならない。

「4-5 解雇制限・退職」参照

■問 20 正解：2, 3

1. 誤り。使用者の責に帰すべき事由による休業の場合においては、使用者は、休業期間中当該労働者に、その平均賃金の 100分の60以上の手当を支払わなければならない。
2. 正しい。
3. 正しい。
4. 誤り。労働者が業務上死亡した場合においては、使用者は、遺族に対して、平均賃金の 1,000日分の遺族補償を行わなければならない。

「4-4 賃金等」、「4-7 災害補償」参照

■問 21 正解：4

1. 正しい。
2. 正しい。
3. 正しい。
4. 誤り。「労働者への周知方法に関する事項」は、就業規則に盛り込まなければならない事項ではない。

「4-8 就業規則」参照

■問 22 正解：A 4, B 6, C 5, D 1

自動車運転者の労働時間等の改善のための基準 4条 1項二号

1日についての拘束時間は、(13時間)を超えないものとし、当該拘束時間を延長する場合であっても、最大拘束時間は、(16時間)とすること。この場合において、1日についての拘束時間が (15時間)を超える回数は、1週間について (2回)以内とすること。

「4-10 労働時間等の改善基準①（拘束時間）」参照

■問 23 正解：1

自動車運転者の労働時間等の改善のための基準 4条 1項四号

運転時間は、2日（始業時刻から起算して48時間をいう）を平均し1日当たり9時間、2週間を平均し1週間当たり44時間を超えないものとする。

1日の運転時間の計算に当たっては、特定の日を起算日として2日ごとに区切り、その2日間の平均とすることが望ましいが、特定日の最大運転時間が改善基準に違反するか否かは、「特定日の前日と特定日の運転時間の平均」と「特定日と特定日の翌日の運転時間の平均」が、ともに9時間を超えているかどうかで判断する。

1. 違反している。

特定日の前日と特定日の運転時間の平均＝10時間

特定日と特定日の翌日の運転時間の平均＝9.5時間

2. 違反していない。

特定日の前日と特定日の運転時間の平均＝9 時間

特定日と特定日の翌日の運転時間の平均＝10 時間

3. 違反していない。

特定日の前日と特定日の運転時間の平均＝9 時間

特定日と特定日の翌日の運転時間の平均＝10 時間

4. 違反していない。

特定日の前日と特定日の運転時間の平均＝9 時間

特定日と特定日の翌日の運転時間の平均＝9.5 時間

#### 「4-11 労働時間等の改善基準②（運転時間）」参照

#### ■問 24 正解：適 1 不適 2, 3, 4

1. 適切
2. 適切でない。適性診断は、運転者の運転行動や運転態度が安全運転にとって好ましい方向へ変化するように動機付けを行うことにより、運転者自身の安全意識を向上させるためのものであり、運転に適さない者を運転者として選任しないようにするためのものではない。
3. 適切でない。これは、ドライブレコーダーについての説明である。デジタル式運行記録計についての説明は、4 を参照のこと。
4. 適切でない。これは、デジタル式運行記録計についての説明である。ドライブレコーダーは、についての説明は、3 を参照のこと。

#### 「5-7 交通事故の防止対策」参照

#### ■問 25 正解：適 2, 4 不適 1, 3

1. 適切でない。我が国の二酸化炭素の排出量については、全体の約 2 割を運輸部門が占め、このうち約 9 割が自動車に起因する。
2. 適切。
3. 適切でない。燃料電池自動車は、燃料電池で水素と酸素を化学反応させて電気を作り、その電気エネルギーを動力に変換して走行させるものであり、有害なガスを排出しない低公害車として期待されている。
4. 適切。

#### 「5-6 交通公害等」参照

#### ■問 26 正解：適 1, 3, 4 不適 2

1. 適切。
2. 適切でない。動体視力は加齢による低下率が大きく個人差も大きい。
3. 適切。
4. 適切。

#### 「5-1 運転者の感覚・能力」参照

#### ■問 27 正解：適 2, 4 不適 1, 3

1. 適切でない。反応時間を長引かせる要因は、心身の状態、アルコールの影響、病気と薬、加齢等が考えられる。

2. 適切。
3. 適切でない。自動車の速度と燃費には密接な関係があり、速度が速すぎても遅すぎても燃料消費量は多くなる。
4. 適切。

「5-1 運転者の感覚・能力」、「5-2 自動車に働く自然力等」  
「5-6 交通公害等」参照

■問 28 正解：3

1. 適切。
2. 適切。
3. 適切でない。衝撃力は、速度の2乗に比例し、速度が2倍になれば衝撃力は4倍になる。また、車両総重量が重いほど大きくなり、車両総重量が2倍になれば衝撃力は2倍の大きさになる。
4. 適切。

「5-2 自動車に働く自然力等」参照

■問 29 正解：3

1. 正しい。
2. 正しい。
3. 誤り。これは、上に積み重ねることができる最大の段数を示す指示マークであり、数値 n は許容される段数である。
4. 正しい。

「5-11 運行記録計の読み取り・荷扱い指示マーク」参照

■問 30 正解：①48km/h ②6.4km/L

①トラックの往復の平均速度

・速度＝距離÷時間

往復の距離：96km×2＝192km

往復の時間：1時間50分＋2時間10分＝4時間

往復の平均速度：192km÷4時間＝48km/h

②復路の燃料消費率

・燃料消費率＝距離÷燃料消費量

・燃料消費量＝距離÷燃料消費率

往路の燃料消費量：96km÷6km/L＝16L

復路の燃料消費量：31L－16L＝15L

復路の燃料消費率：96km÷15L＝6.4km/L

「5-10 計算問題」参照